

Playback No.1

発行：大城賢 <http://kenoshiro.net/>

“理想を持ってなかったら、生きている資格がない”

今年も外国語活動 I を担当することになりました。この科目を担当するようになって、10 年以上になります。私が最も楽しみにしている講義の 1 つです。

さて、表題の“現実感覚がなければ生きていられない。理想を持ってなかったら、生きている資格がない”は、私が 30 年以上前に読んだレイモンド・チャンドラーの小説『プレイバック』の一節です。30 年以上も前に読んだ小説なので、ストーリーもあまりよく覚えていません。ただ、私立探偵の男が怪しい女を追っかけた話でした。翻訳本ですから、いかにも“翻訳”という感じの日本語が多く、ところどころ意味不明の表現があったことはよく覚えています。そして、なぜか忘れられないのが“現実感覚がなければ生きていられない。理想を持ってなかったら、生きている資格がない”という一節です。

私は大学を卒業して中学校の英語教師になりました。今では、想像できないかもしれませんが、当時は理想と情熱にあふれた細身の青年教師でした。現場の授業は困難を極めるものでした。授業がうまくいかない、生徒が暴れる、暴言を吐く、などは日常的に起こっていました。

授業がうまくいかないのは、こんな環境のせいなのだ。生徒に学習意欲がないのだからしかたがない。このような考えが頭をかすめることがよくありました。しかし、一方で、教師として、これでよいのか、という声も聞こえてきました。そんな時、私の頭を駆け巡ったのが『プレイバック』の一節です。

教育という現場では、さまざまな困難が待ち受けています。現実感覚がなければ、本当に生きてはいけないと思います。しかし、理想をもって授業に取り組んでいかなければ現実は改善されません。

今回の受講生の 39 人中 32 人が 3 年次の学生です。もうすぐ教育実践研究（教育実習事前学習）が始まり、8 月末からは教育実習がスタートします。受講生のみなさんには、現場の現実をしっかりと見て欲しいと思います。教育実習では、自分の理想としていた教室とは異なる現実と出会うかもしれません。しかし、現場のせい、児童・生徒のせい、と考えた時点で教師としての資格はありません！

2020 年からは小学校の英語が教科化されます。実は、課題が山積しています。現実を直視しつつ、しっかりと理想を持った教師になって欲しいと思います。